



2学期終了 夢に向かって認め合い支え合い高め合う地域の学校に

今学期も様々な行事が無事に実施できたことは、保護者の皆様、地域の皆様に様々な面で多大なるご配慮、ご支援、ご協力をいただいたおかげです。誠にありがとうございました。改めてお礼申し上げます。本日の終業式をもって83日間の2学期を終えることができました。

【2学期終業式で全校に話したこと】

83日間の長い2学期、皆さんは、よく頑張り抜きました。学習や部活動、学校行事など、日々の積み重ねが今につながっています。自分自身、そして、周りのみんなの頑張りをも認め合いましょう。

2学期を振り返ってみると、私は、やつがね祭や音楽会での皆さんの発表の素晴らしさが心に残っています。やつがね祭でのステージ発表や展示発表、音楽会での皆さんの素晴らしい歌声は、私たち教職員だけでなく、見に来てくださった保護者や地域の方々にも深い感動を与えてくれました。クラスや学年、全校が一つになり、目標に向かって努力する皆さんの姿は、北部中学校の誇りです。皆さんの主体的な取り組みに、改めて感謝します。また、日々の学校生活においても、授業に取り組む姿勢、気持ちの良い挨拶、休み時間や清掃の様子などから伝わる落ち着いた雰囲気、そして平穏な環境を作り上げてきてくれたことを、改めてありがたく感じています。

皆さんが作り上げてくれたこの落ち着いた素晴らしい学校生活を、3学期、そして来年へと引き継いでいくために、皆さんに心に留めておいてほしいことがあります。「ハインリッヒの法則」というものです。これはアメリカの損害保険会社の安全技師ハインリッヒが提唱した労働災害に関する法則です。ある重大な事故が1件起こる背景には、29件の軽微な事故があり、さらにその背景には300件のヒヤリ・ハット、つまり「事故寸前」の出来事が隠れている、というものです。この法則は、学校生活にも当てはまると思います。学校におけるヒヤリ・ハットとは、例えば、「廊下を走っていて人とぶつかりそうになった。」、「提出期限を少しだけ過ぎてしまった。」、「友人の心ない一言を軽く受け流してしまった。」これらは「300件」のヒヤリ・ハットかもしれません。

皆さんが作り上げてくれたこの落ち着いた素晴らしい学校生活を、3学期、そして来年へと引き継いでいくために、皆さんに心に留めておいてほしいことがあります。「ハインリッヒの法則」というものです。これはアメリカの損害保険会社の安全技師ハインリッヒが提唱した労働災害に関する法則です。ある重大な事故が1件起こる背景には、29件の軽微な事故があり、さらにその背景には300件のヒヤリ・ハット、つまり「事故寸前」の出来事が隠れている、というものです。この法則は、学校生活にも当てはまると思います。学校におけるヒヤリ・ハットとは、例えば、「廊下を走っていて人とぶつかりそうになった。」、「提出期限を少しだけ過ぎてしまった。」、「友人の心ない一言を軽く受け流してしまった。」これらは「300件」のヒヤリ・ハットかもしれません。



皆さんは、普段からルールを守り、思いやりを持って行動できています。しかし、ほんの少しの気の緩みや、「これくらいなら大丈夫だろう。」という油断が、いつの間にか「29件」の小さなトラブル、そして最悪の場合、「1件」の重大な事故やいじめといった事態に発展してしまう危険性を秘めているということです。皆さんの手で築き上げたこの北部中学校の「落ち着き」と「温かい雰囲気」を守るためにも、冬休み中はもちろん、3学期からも、この「300件」の小さなサインを見逃さないでください。自分自身の行動はもちろん、周りの変化にも敏感になり、互いに声を掛け合い、未然に防ぐ意識を大切にしてください。「受援力」、「他喜力」、「他輝力」、「幸動力」を改めて意識していくと良いと思います。

そしてもう一つ、皆さんに伝えたいことは、「成長には、適切な『負荷』が必要である」ということです。

人間は本来、楽をしたい動物です。同じことを繰り返しやるうちに手を抜いて最小限の力でするように対応していく力(適応力)を持っています。だから知らず知らずのうちに手を抜いてしまうようになります。「過負荷の原理」というものがあります。これは、トレーニングで筋力や筋肉を成長させるためには、日常生活よりも強い負荷を筋肉に与える必要があるという考え方です。体に変化を起こすには、継続する刺激に対して適応する能力を上回る刺激が必要で、慣れてきたら徐々に負荷を増やしていくことが重要になります。つまり、刺激や負荷があるから成長できるということです。

皆さんにも同じような経験があると思います。部活動の大会やコンクールで結果を出したり、文化祭や音楽会を成功させたりすることは、決して楽な道のりではなかったと思います。時には練習が辛いと感じたり、準備に時間がかかって大変だと感じたり、仲間と意見が合わずにトラブルになってしまったりしたことなどもあったと思います。しかし、その「大変さ」や「負荷」があったからこそ、皆さんは本番で大きな達成感を味わい、人として大きく成長できたのだと思います。

過負荷の原理のように、筋肉を鍛えるためには、ある程度の重さの負荷が必要です。それと同じで、皆さんの心や体、学力や人間性を鍛えるためにも、時には困難な課題や少し頑張らなければ乗り越えられない壁が必要ということです。

明日からの冬休みや3学期、自分に少し「負荷」をかけることにも挑戦してみてください。「苦手な教科のドリルを最後までやり遂げる」「いつもより早く起きて、生活のリズムを整える」「毎日、体力トレーニングを続ける」など、何でも構いません。自分が少しだけ背伸びをしなければ届かない目標を設定してみてください。その小さな負荷を乗り越える経験が、皆さんをさらに強く、大きく、たくましくしてくれるはずです。つまり、挑戦「Challenge」は変わる「Change」チャンス「Chance」です。明日から、そして新年からどんな挑戦ができそうか、考えてみてください。

それでは改めて明日から休みになります。インフルエンザや新型コロナウイルス感染症などへの対策を万全にして、健康にはくれぐれも留意してください。また、危ないことはしない、近づかない、予測と確認をして、事故や事件に巻き込まれないよう、十分に気をつけてください。1月8日の始業式に元気な姿で再会できることを楽しみにしています。皆さんが健康で充実した冬休みを過ごし、新たな目標を持って3学期を迎えられることを心から願っています。それでは皆さん、良いお年をお迎えください。

第3回学校運営協議会

12月11日(木)に第3回 学校運営協議会を行いました。学校評議員の皆様は5時間目の授業を参観していただいた後に、懇談を行いました。「どのクラスの授業も楽しそう。和気あいの雰囲気の中、友達と一緒に考えている姿がよかった。一緒に授業を最後まで受けたいと思った。」「話をしている生徒もいるが、授業に関係のあることだった。笑顔のある授業で、楽しんでいた。生徒に合わせた授業をしていた。」「興味深い授業が多かった。今後も社会に出た時に生きるような力を学校で扱ってほしい。また、将来どうしたいか考えたり、社会の仕組みを学んだりするようなキャリア教育を進めてほしい。」「話しかけた時に上手な応対ができ、コミュニケーション能力がある生徒が多かった。」「主体的に取り組んでいるし、対話的な学びにもなっていた。」「学習カードが工夫されていた。」「基礎基本を身に付けるためのドリル学習はその後の積み重ねのために大切。」「PTAとしても先生方の手助けをしたい。」などのご感想やご意見をいただきました。次回の協議会では、グループに分かれて生徒と懇談をする予定です。ご意見を参考に、地域とともにある学校づくりをさらに進めていきたいと思っています。

休み中の12月29日(月)~1月2日(金)、または土日に、
学校へ緊急な連絡をとりたい場合は茅野市役所 72-2101 へ連絡をお願いします。